



# コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

## 認知機能リハビリの プロセスアプローチ

脳卒中連携を考える会にて報告

院長 鍛本 真一郎

### 【はじめに】

地域で脳卒中急性期治療の一翼を担うのが川崎医科大学の脳卒中科・脳神経外科です。そこからリハビリテーションへの円滑なバトンタッチをするための意見交換会が毎年開催されています。当院からは今回（7月25日）、脳卒中の複合する合併症を認知機能リハビリで分類するプロセスアプローチを紹介しました。

### 【合併症は相互に影響】

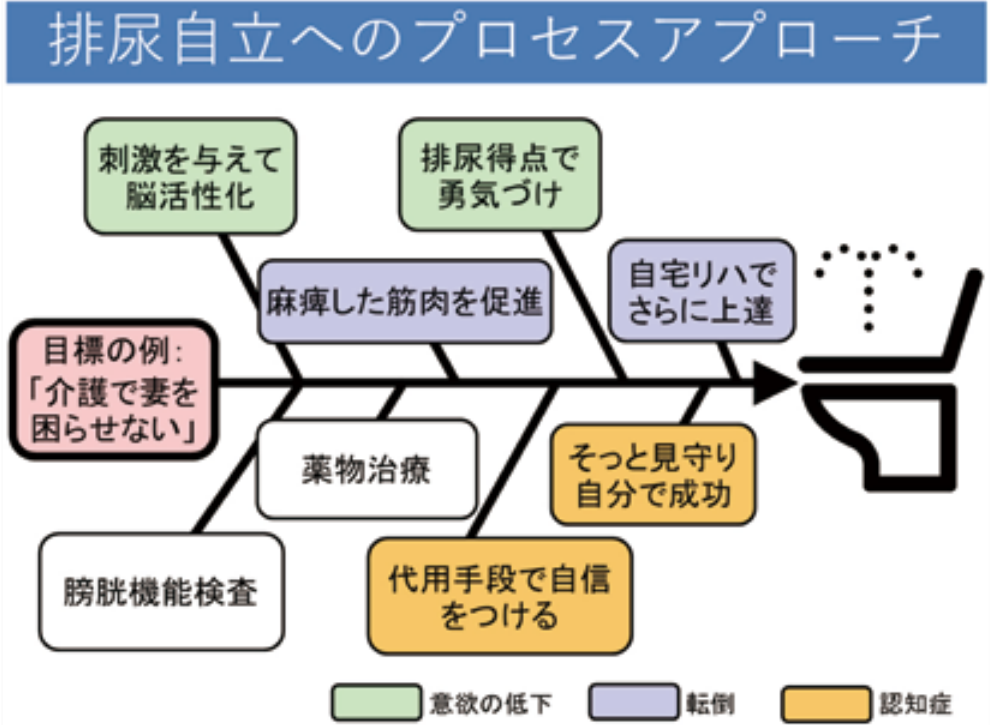
（図1）上段は脳卒中合併症の分類です。このうち特に介護負担が大きいのが排尿障害ですが、実は（図1）下段のように円グラフの他の項目と密接につながっています。例えば転倒するほどの麻痺があればトイレに行けませんし、意欲が低下すればトイレに行く気持がさがります。そもそも認知症があればトイレすら忘れてしまいます。脳卒中後の認知症は30%前後といわれます。

### 【排尿自立率 78%】

（図2）は相互に影響する合併症ごとに順番に時には同時



（図1）上段は脳卒中合併症の分類。いずれも暮らしに支障を来しますが、下段のように複数の合併症をまとめるのがリハビリ医療です。



（図2）リハビリ医療では複数の合併症を時間軸に並べて治療します。これをプロセスアプローチと呼びます。



片足で立ち、立位を保つ様子

コープリハビリテーション病院  
理学療法士 桑原 京佑  
理学療法士 樋口 愛子  
老健あかね

平成18年4月1日から市の委託事業として高齢者支援センターで介護予防教室が開始されました。当院への依頼は体力測定と体操指導で、6月に生協会館、7月に相生町の公民館へ伺いました。体力測定でわかった事は継続した運動により健康を維持できる方が多い事です。特に何度も体操に参加されている方は、立ち上がりや片足立ちなど、標準値を超える値を出す方が居られ、運動の大切さを実感しました。地域の方との交流も良い刺激となり、元気に会話する様子も健康には重要な点と感しました。我々の取り組みは地域密着であり、地元の方と協力し、健康を維持できるように関わりをより強めていきたいです。当院では短期集中健幸アップ教室を毎週開催しておりますので、ぜひご参加下さい。

普段からの運動は  
体力向上に  
大切だと実感  
高齢者支援センター  
での体力測定

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。

